

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	近鉄日本鉄道名古屋線（川原町駅付近）		事業区分	連続立体交差	事業主体	三重県
起終点	自：三重県四日市市滝川町 至：三重県四日市市陶栄町				延長	0.7km
事業概要						
・本事業は、近鉄名古屋線の川原町駅付近の延長約0.7km区間において鉄道を高架化することにより、4箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。						
平成18年度事業化		昭和46年度都市計画決定		平成19年度用地着手		平成19年度工事着手
全体事業費		115億円		事業進捗率		97%
				供用済延長		0km
計画交通量		70,597台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年
	(事業全体) 1.5	/ 118億円		/ 177億円		平成27年
	(残事業)	事業費： /118億円 維持管理費： /0.2億円		走行時間短縮便益 / 152億円 走行経費減少便益： / 3億円 交通事故減少便益： / 22億円		
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量：B/C= ~ (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C= ~ (交通量 ±10%) 事業費：B/C= ~ (事業費 ±10%) 事業費：B/C= ~ (事業費 ±10%) 事業期間：B/C= ~ (事業期間 ±20%) 事業期間：B/C= ~ (事業期間 ±20%)						
事業の効果等						
・当該区間における鉄道を立体化することにより踏切を除却し、交通の円滑化を図る。 ・分断された市街地を一体化することにより、都市の活性化を図る。						
関係する地方公共団体等の意見						
・事業箇所周辺には多数の人家が存在しており、四日市市、地域住民等から早期整備を要望されている。						
事業評価監視委員会の意見						
・平成27年度三重県公共事業評価審査委員会において、事業継続は妥当であると了承。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・事業箇所周辺には市街地が形成されており、区画整理事業等によって土地利用の高度化が見込まれ、引き続き人口集積が予想される。 ・四日市市の総人口は微減であるものの、市街地については増加傾向にあることから、依然として事業の必要性は高いものとする。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
・平成30年度末の事業進捗率は97%（工事97%、用地100%）となっている。 ・これまでに平成28年度に上下線を高架切替済みである。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
・今後、側道及び鉄道交差道路等を整備し、平成31年度末に事業完了する予定である。						
施設の構造や工法の変更等						
・高架線への切り換えによって不要となった仮線枕木やレール等の軌道設備について、近鉄沿線の老朽化した線路の復旧に再利用することによってコスト縮減を実施。						
対応方針		事業継続				
対応方針決定の理由						
・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものとする。						

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。